

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	保健体育課長 佐藤 正範	電話番号	0852-22-5722
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	国民体育大会選手派遣事業		
目的	(1) 対象	競技スポーツ者	
	(2) 意図	できるだけ多くの選手が国体へ出場する	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ多くの選手及び監督を国体中国ブロック大会や国体本大会へ派遣するため、関係競技団体に対して、国体の県予選大会運営費を補助する。 できるだけ多くの選手及び監督を国体本大会へ派遣するため、県予選を勝ち抜いた選手及び監督を国体中国ブロック大会へ派遣する。 県予選及び中国ブロック大会を勝ち抜いた選手及び監督を国体本大会へ派遣する。 		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 国体選手派遣数	目標値		318.0	318.0	318.0	318.0	人
		取組目標値						
	式・定義 国民体育大会に派遣した選手数	実績値	263.0					
		達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	68,302	117,755
うち一般財源 (千円)	68,302	117,755

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基じた現状)

<ul style="list-style-type: none"> H27国体ブロック大会を突破して本国体へ出場することができた競技数は13競技(H26:13競技)、種目数は26種目(H26:28種目)であった。 種別では、成年男子は3競技3種目(H26:6競技7種目)、成年女子は3競技4種目(H26:2競技2種目)、少年男子は7競技10種目(H26:6競技9種目)、少年女子は7競技9種目(H26:8競技10種目)であった。 団体と個人の別では、団体が16種目、個人が10種目であった。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

<ul style="list-style-type: none"> 成年女子と少年男子において、昨年度よりもブロック大会を突破して本大会へ出場する競技と種目数が増加した。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> ブロック大会を突破する競技種目が少ない。 (島根:26種目、鳥取:33種目、岡山:51種目、広島:53種目、山口:47種目) ブロック大会に不参加の競技種目が多く、H26よりも2競技5種目増えた。 (島根:11種目、鳥取:4種目、岡山:2種目、広島:6種目、山口:7種目)
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会人として働きながら競技を続けることのできる環境が不足している。 高校3年生など進学のためにブロック大会に参加できないケースもある。 ブロック大会不参加種目は、競技人口の少ない、いわゆる未普及競技に多い。
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学へ進学しても「ふるさと選手」として島根県代表で出場できる選手を増やしたり、社会人として働きながら競技を続けたりすることのできる環境を充実させる必要がある。 未普及競技の普及活動や未普及競技に関わる選手や指導者等の人材育成を図る必要がある。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

<ul style="list-style-type: none"> 企業をあげてスポーツ振興に取り組む企業の強化対策の支援、特別体育専任教員制度の維持など、必要な環境を充実させる。 国体に対する意識付けをあらゆる機会を通して選手に対して行い、「ふるさと選手」の確保や国体に出場する選手を増やす。 競技団体、県中体連、県高体連、県体協、県教育委員会が一体となって、未普及競技の普及活動を行い、ブロック大会に参加する選手の育成に取り組む。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価(任意記載)

--